

教育長だより



鹿児島県三島村教育委員会
教育長

室之園晃徳



1958年生まれ。鹿児島大学教育学部卒業後、鹿児島県内の小学校、鹿児島市教委主任指導主事、大島教育事務所長、鹿児島市立田上小学校長を経て現職。全国一離島の学校数が多い鹿児島県で10年間離島教育に従事し、鹿児島県小学校長会会長も務めた。

海に囲まれた我が国には、約6800余りの島があるそうです。島の数が一番多い県は長崎県ですが、島にある学校数が一番多いのは鹿児島県です。鹿児島県は、北は長島町から南は与論町まで南北に約600キロメートル。これは鹿児島市から大阪市の直線距離とちょうど同じくらいです。この長い海上に、大きな島や小さな島々が連なって浮かんでおり、それぞれの島に合わせて約200校余りの小・中学校が点在しています。へき地にある学校の割合が約40%、小学校の複式学級の割合が約10%で、全国で最も高い数値を示しています。

このような現状から、鹿児島県の教職員には独特の人事異動のルールがあります。それは、在任期間中に必ず1回以上は離島の学校に赴任しなければならないというルールです。県の教育を公平に分担するために、毎年、全県的な人事交流が行われており、場合によっては3月の人事異動で600キロの旅をする教職員もいることとなります。ですから鹿児島県の教職員は、明確な人生設計をもって人事異動に備えておくことが必要です。県外の先生方にこの話をすると一様に驚かれますが、「二十四の瞳」の世界のような教師生活への憧れは、皆もっているのではないのでしょうか。人生で1回は離島で教師をする。この人事異動ルールを、鹿児島県の教師になるよさにとらえている教師も多いと思います。

また、鹿児島県は、「山村留学生受入人数」も全国1位となっています。県内の約半数の小・中学校がへき地・小規模校であり、児童生徒数の減少が大きな課題となっているため、少人数指導によるきめ細かな教育や特色ある教育活動を生かし、山村留学制度を充実させることによって学校や地域の活性化を図っているのです。山間部から離島まで22の市町村がそれぞれユニークなネーミングで特色ある取組を展開しています。例えば、ウミネコ留学、ほしぞら留学、宇宙留学、かめんこ留学…などなどです。

三島村では「しおかぜ留学」と銘打って取り組んでいます。この事業は村の施策の中でも最も重要な柱の一つであり、生命線ともいえるものです。なぜならこの制度があるからこそ、学校は閉校に追い込まれることなく存続することができているからです。

何ととっても子どもの輝く笑顔や笑い声は、まわりを元気にしてくれます。子どもには不思議なパワーが与えられているのかもしれない。島からこのパワーが消えてしまえば、島の活力が失われていくのは必至です。

またこの制度は、日本の教育課題を解決することにも大きな役割を果たすことができるのではと感じているので、それは次号に繋がります。

